

平成二十七年七月に実施した各常任委員会の調査視察の概要を報告します。

観光経済常任委員会

《石川県白山市》

地産地消推進計画について

白山の「恵み」を、地域で育み（生産）・つなぎ（流通）・美味しくいただく（消費）をテーマとし、平成二十二年に計画を策定、ことし三月には地産地消に関する施策を総合的かつ効果的に推進し、それに基づいた活動を実施することを加え、第二次計画を策定したとのことでした。

主な取り組みとして、情報発信の強化、食育活動の推進、学校給食への地元食材導入推進、地元農林水産物消費拡大の推進等がありました。中でも学校給食では、月単位でテーマを設けて地元産を積極的に使用できる工夫をしたり、農協と連携し、地元産一等米の導入など興味深い取り組みを行っていました。

また、農林水産物ブランド認証品を八品目から十五品目にすることを目指す中、ブランドマークを商標化し販売していますが、価格向上に結びついておらず、今後の課題となっているとのことでした。

当市でも市民への情報発信をさらに強化し意識を高める、その積み重ねが農畜産業発展に繋がるのではという印象を受けました。

《兵庫県高砂市》
高砂市商業活性化基本計画について

近年の消費の多様化、経営者の高齢化及び後継者不足により、商店街の空き店舗が増加したことの対策として、総合的かつ計画的に推進するために策定したとのことでした。

計画策定による主な取り組みとしては、地域が一体となるイベントの開

民生福祉常任委員会

《京都府綾部市》

綾部市立病院の取り組みについて

当病院は綾部市が開設し公益財団法人綾部市医療公社が指定管理を受けています。医療公社は市が百パーセント出資し、市長が公社理事長を務めています。医療公社の職員は非公務員ですが給与は国家公務員に準拠しています。病院事業会計は市の保健推進課が所管し施設整備、資産管理等を行い、医療公社は病院の管理、診療業務等を行い、双方が協力、連携し運営しています。開院三年目の平成四年度から平成二十五年年度までの二十二

年間にわたり黒字経営で、自治体立優良病院として二度の表彰、平成十五年には総務大臣表彰を受けています。しかし平成二十六年度は消費税率の引上げや診療報酬改定の余波を受け約二千九百万円の赤字となっています。平成二十六年年度の実績

は、病床利用率約八十二%、手術件数千六百四十五件、開院以来継続している土曜診療などです。また、院内保育所設置や短時間勤務職員制度を採用するなど、看護部を主体に早くからワーク・ライフ・バランスに取り組んでいます。医療公社で職員を採用することで異動がなく、専門性に長け円滑かつ効率的な医療事務を行っています。また、病院広報紙に掲載されている新しいスタッフの声では、綾部市を愛する声が多く、魅力あるまちづくりが人材確保にもつながっていると感じました。病院長はじめスタッフから病院に対する誇りがひしひしと感じられ、健全な経営を支えているように感じました。

《福井県越前市》
空き家等の適正管理に関する条例について

越前市は福井県の中央に位置し、夏は高温多湿、冬は多雪の気候で、戦後が長く古い建物が多いことから条例の制定につながったようです。平成二十三年度頃から空き家に関する相談がふえ、平成二十五年四月から制定準備、同年九月制定、平成二十六年四月に施行し、同時に解体費用の助成も始めています。

実態調査の結果千四百三十一件が空き家に該当し、一件ごとにカルテを作成、その内危険度の高い二十四件の所有者に対し適正管理の依頼と当該空き家の今後の方針を確認しています。これにより自主的解体四件、補助事業利用解体が一件と文書指導だけでも大きな成果を上げていました。



石川県白山市にて



綾部市立病院長と